

2010.11.17

平成22 年度学術情報リテラシー教育担当者研修（国立情報学研究所）

# 大学の教授法改善と学習支援型図書館

慶應義塾大学 総合政策学部

井下 理（いのした おさむ）

# 本日の研修内容（要約）

大学において教授・学習行動が変化してきた。

教授・学習行動の変化は、教育環境の変化、教育方法の変化を伴う。教授・学習法変化の特徴について概観する。その背景には、ユニバーサル化とデジタル化が影響要因として想定しうる。

この変化の中で大学図書館が学習支援型図書館としてどう変革しうるのか、検討する。

さらに、大学における学習環境充実のための統合的な基盤強化の方策について考えてみよう。

# 内容構成

- 1 大学における教授法・学習法の変化
- 2 変化の背景 (1)ユニバーサル化 (2)デジタル化
- 3 教育環境の変化
- 4 変化への対応が大学を変える
- 5 学習型図書館への変革
- 6 今後の課題 — 統合的基盤強化の方策

# 1 教授・学習法の変化 (1)

- 講義型に加えて授業形式の多様化が進む
  - ― 体験型：インターン、海外研修
  - ― フィールド型：野外実習、現地研修
  - ― 地域連携型：学外実習

## ★ ボーダレス化

教室空間・キャンパス空間の越境

時間的設定の自由度拡大

# 1 教授・学習法の変化 (2)

- 吸収型から発信型へ
  - ー 外国語学習
  - ー プレゼンテーションを伴う授業の普及
- ★ 学習行動の変化
  - 自発性の重視
  - アクティブ・ラーニングへの注目

# 1 教授・学習法の変化 (3)

- 単独個別学習に加えて集団での協調学習  
ーグループワーク、集団制作型
- ★ 個人間競争から集団間競争へ  
競争から協力・協調へ  
学び行動が個人単位から集団単位へ

## 2 変化の背景 (1)

### ● 人口の変動

- 18歳人口の減少
- 進学率の上昇

<エリート時代からマス化、ユニバーサル化>

### ● 政策変化

- 規制緩和・・・4文字・カタカナ学部
- 事前審査から事後評価へ
- FD義務化、教育COE、GPなど

## 2 変化の背景 (2)

- (教員1) 社会人教員の採用拡大
- (教員2) 教授法開発への政策的推進
  - FDの奨励
- (学生) 学生の意欲の変化
  - 学習意欲・目的の希薄な学生の増加
  - 学習ニーズの多様化
  - 在学への期待の変化

## 2 変化の背景 (3)

- 情報通信技術の進展 (ICTの応用)
- 学生の持つ通信機器の変化
  - 低コスト、ユニバーサル化
- 情報端末の開発促進と多様化
  - Twitter, Clicker, ケータイ電話等の応用
- 学内情報環境の進展
  - 学内LANのワイアレス化、ボーダレス化

# 3 教育環境の変化 (1)

教室の設備:

黒板から白板へ

OHPからPC映写型へ

観光バス型固定的座席配置から半円形へ

固定式から可動式へ

図書館の設備

# 3 教育環境の変化 (2)

## 図書館のデジタル化

知識情報の保存形態の変革

情報流通の様式変化

カードカタログ書架の撤廃

PCなど端末の増加・設置空間の拡大

図書館サービスの変化(期待・内容の変化)

書庫スペースの転用

# 3 教育環境の変化 (3)

## 図書館の教室化 (学習空間化)

図書館スペースでの授業実施

フィールドとしての図書館

キャンパスの交流プラザ

情報基地としての高機能化

快適居住空間としての利用価値の高度化

# 3 教育環境の変化 (4)

## 一 図書館空間への期待の変化

- 快適なくつろぎの空間
- 飲食可能な条件模索し、許容範囲の拡大
- 静寂に加え、交流空間への期待
- キャンパス内での居場所ニーズの充足
- 読書行動だけでなく、「書く」「話す」行動も
- 視覚資料だけでなく視聴覚資料も扱う
- 単独視聴に加えて集団視聴も可能に
- 物理的空間から社会的交流の場へ

# 4 変化への対応が大学を変える (1)

## (1) ユニバーサル化への対応

学習準備態勢の未熟・学習意欲の低迷対策  
多様な学習ニーズ、在学ニーズへの対応  
相談体制・学生支援体制の整備

## (2) デジタル化への対応

利便性・効率性の追求・高度化  
時間と空間の共有化の意義増大(オフライン)

# 4 変化への対応が大学を変える (2)

変化の諸相把握のための方策

- データに基づく政策判断・立案
- データに基づくニーズ評価
- データに基づく実績評価
- ユーザ志向の高まり

調査・観察からサービス企画・創造へ

# 4 変化への対応が大学を変える (3)

調査観察からデータ分析へ

データ分析からサービス企画・創造へ

- 情報リテラシー教育の教育実践を分担
- ユーザへの教育サービス
- ユーザとの対話、社会調査の定着

## 5 学習支援型図書館への変革（1）

A: ユニバーサル化世代の学習行動への支援

B: デジタル世代への教育に焦点化

A+B = デジタルライブラリーと共同学習空間創設

＜典型事例としてのグループ学習室＞

## 5 学習支援型図書館への変革 (2)

- 1 情報リテラシー教育の拠点空間
- 2 映像編集のスタジオ
- 3 リサーチ実施工房
- 4 学習支援拠点空間
- 5 ライティング支援拠点
- 6 リサーチデザイン&サポート拠点
- 7 各種コンサルティング&ファシリテーション
- 8 機材・設備のレンタル基地(PC, デジカメ等)

# 6 今後の課題 — 組織開発と 統合的基盤強化

- 1 研究支援と学習支援の分離と再統合  
— 役割の再定義、再編、内容と対象
- 2 学習支援のための教育機能の再編
- 3 教育機能強化へ向けた組織開発
- 4 大学レベルでの挑戦
- 5 社会レベルでの挑戦

# 6-1 研究支援と学習支援の再編

研究活動への支援……対象、目的、方法

教育活動への支援

学習活動への支援

6-2

## 学習支援へ向けた教育機能再編

1 学生支援

2 学習支援

## 6-3 教育機能強化と組織開発

役割再定義

地位・役割構造の変革

関係開発への検討

協働体制の再編

対内・対外の同時展開

## 6-4 大学レベルでの挑戦

個別大学組織でできること

- すべきこと

大学間連携で実現できること

- すべきこと

## 6-5 社会レベルでの挑戦

大学だけでなく産・官・民等との連携で  
できること・すべきこと

国際社会の協調・連携で  
実現できること・すべきこと

次世代の育成へ向けて

## 6 今後の課題 — 統合的基盤強化へ

- 従来の固定的発想からの脱皮
- 既存の価値観からの解放
- 未来からの視線(時間軸)
- 国際比較・連携の観点から

# 文献紹介

## 1 S.ヴォーン他

『グループ・インタビューの技法』

慶應義塾大学出版会、1999

## 2 大串夏身、鳴海雅人、高野洋平、高木万貴子

『触発する図書館』

青弓社、2010

THANKS !